

広島原爆へ投下された日に、商都の中心・船場が焼けた惨状を聞き・・・“平和”と“大阪の復興”を考える

“船場炎上” 大阪大空襲の体験談を聞く会

日時：2009年 8月6日(木) 午後6時30分～9時

第一部：ドキュメンタリー工房制作「壊滅した商都」上映

第二部：「船場炎上」・大阪大空襲の体験談を聞く

体験談：船場で被災した 当時道修町在住 三島佑一氏 ・ 当時唐物町在住 角野韶炳氏

会場：大阪市中央公会堂 地下1階 展示室

〒530-0005 大阪市北区中之島1丁目1番27号 電話 06-6208-2002

会費：一般 1,500円 ・ 学生 500円

広島に原爆が投下され64年目の8月6日夜に、船場の相場師・岩本栄之助氏が寄贈し、大阪大空襲で焼け出された人々が避難生活を過ごした中央公会堂の会議室に集い、平和について考えます。

第一部では大阪大空襲について「壊滅した商都」の映像で振り返り、第二部では「船場炎上」と題して、1945年3月13日に爆撃を受けた船場が炎上し人々が死傷、B29が墜落しアメリカ兵が・・・と今はビルが立ち並ぶオフィス街が遭遇したあの日の惨状とを・・・当時船場在住だった三島祐一氏と角野韶炳氏から爆撃直後の船場炎上の様子やその後の暮らしについて拝聴すると共に、戦争で犠牲になった人々の冥福を祈り、大阪の復興についても考えます。



「壊滅した商都」：ドキュメンタリー工房制作(47分) (監修・お話：関西大学名誉教授 小山 仁示氏・協力：郷土史家 故伊勢戸佐一郎氏 ・ 大阪国際平和センター)

「太平洋戦争末期、大阪は超空の要塞と呼ばれたアメリカの爆撃機B-29の爆撃によって壊滅した。爆撃は1944年12月19日から敗戦前日の'45年8月14日まで50数回に及び、100機以上の大規模な空襲は8回にのぼった。翌1946年米戦略爆撃調査団が写し出した大阪は当時の状況をよく物語っている。大阪駅から難波の高島屋まで見通せる一面の焼け野原、繁華街の心齋橋、ビジネス街の船場、本町も瓦礫の山。御堂筋から大阪城まで土蔵のみ残る光景は異様である。阪急、そごう、大丸といった百貨店、迷彩色を施した大阪ガスビルが、かろうじて現在の姿を残している。一方、当時の市民は見る事が禁じられていた陸軍造兵廠。今は大阪城公園、ビジネスパークに変身したが、広大な土地にその無残な姿をさらしている。映像は大空襲の跡をたどりながら、戦後の復興の姿も映し出す貴重な記録となっている。」

三島祐一氏：昭和3年(1928年)道修町生まれ。旧制大阪府立北野中学校、旧制浪速高等学校。大阪大学付属薬学専門部を経て京都大学国文科卒業。四天王寺大学名誉教授。くすりの道修町資料館道修町ゆかりの人々コーナー企顧問、少彦名神社参道入口に文学碑「春琴抄」の説明文を書く。著書に「船場・道修町～薬・商い・学の町～」(上方文庫)「あの日は再び帰らず」(鳥影社)等がある。

角野韶炳氏：昭和6年(1925年)大阪萩の茶屋に生まれ、4歳で唐物町に移り住み久宝小学校から大鉄工業学校(現・阪南大学付属高校)に学び父が営む時計商の家業に従事。現在大阪時計宝飾眼鏡商業協同組合事業委員長・近江神宮時計博物館副館長を務める。

船場炎上・大阪大空襲の体験談を聞く会・申込書

大阪から情報を発信する文化活動グループ 熟塾・ FAX：072-994-2856

お名前

ご住所

〒

-

TEL NO

E-mail

電話：072-994-2856 (不在の場合は、留守電にお名前・ご住所・お電話番号を録音願います)

じゅくじゅく 熟塾ホームページ <http://www.jukujuku.gr.jp/> (BXI05250@nifty.com)からもお申し込みいただけます。